

公立大学法人 大分県立看護科学大学
中期目標期間（平成18－23年度）の
業務実績に関する評価結果

（全体評価）

（大項目評価）

平成24年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

全体として中期計画の達成状況が良好である。

判断理由

- 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」及び「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」の項目の評価については、S評価（達成状況が非常に優れている）が妥当であると判断した。また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価については、A評価（達成状況が良好である）が妥当であると判断した。
- 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、NP（診療看護師）の制度化に向けた調査や特区の提案、要望書の提出などの活動が「特定看護師（仮称）」の導入に向けた動きにつながったこと、保健師・助産師の養成の大学院化に向けて取り組んだこと、学生の学習充実のための進級試験の導入とフォロー体制を整備したことなどを高く評価した。さらに、看護国際フォーラムの開催、ウズベキスタンの「看護教育改善プロジェクト」に参加したことで国際社会へ大きく貢献していることなどから、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、S評価（達成状況が非常に優れている）とした。
- 「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」の項目については、外部研究資金の獲得に積極的に取り組み、多くの科学研究費補助金や企業や市町村との共同研究・受託研究費を獲得したことがあったことなどから、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」については、S評価（達成状況が非常に優れている）とした。
- その他の大項目で特筆すべき事項は、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目において、教員の評価結果を学内の競争的研究費の配分及び昇任に反映させたことなどがあった。
- 以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として中期計画の達成状況が良好である」とした。

<委員会からのコメント>

- ・大分県立看護科学大学は、独立行政法人化以降、中期目標に掲げる「看護に関する高等専門教育、学術研究及び国際交流を通じて、生命の尊厳と倫理観を基盤とし、科学的視野に富み、及び社会の要請にこたえることのできる心豊かな人材を育成し、もって地域社会における保健医療及び福祉の向上並びに我が国の看護学の進展に貢献する」ことを目標とし、その達成に向け、年度計画を着実に実行している。

特に、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」ではこれまで、NPの大学院教育を開始したことと併せ、制度化に向けて取り組んだことや、ウズベキスタン看護教育改善プロジェクトに参加したこと、保健師・助産師養成の大学院化など、理事長のリーダーシップのもと教職員が一体となって、全国的にも先進的な取組を進めてきたことは、委員会としても、高く評価してきたと

ころである。

その他にも、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」では、導入した教員業績評価制度による評価結果を、学内の競争的研究費の配分及び昇任に反映させたこと、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」では、科学研究費補助金や企業や自治体との共同研究・受託研究などの外部研究資金の獲得に積極的に取り組み、多くの外部研究資金の獲得に至ったことなど計画以上の成果を達成した事項も見られ、大学運営の基盤となるべき事項にもしっかりと取り組んでいることは評価できる。

- ・今後も、社会情勢の変化や学生のニーズを的確に捉え、県立大学として大学に求められる役割を明確にし、第2期中期計画を着実に進めていただき、更に魅力ある大学づくりの取組を期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の質の向上	S 非常に優れている	A 良好である	B おおむね良好である	C 不十分である	D 重大な改善事項がある
Ⅱ業務運営の改善及び効率化	S 非常に優れている	A 良好である	B おおむね良好である	C 不十分である	D 重大な改善事項がある
Ⅲ財務内容の改善	S 非常に優れている	A 良好である	B おおむね良好である	C 不十分である	D 重大な改善事項がある
Ⅳ自己点検・評価並びに情報提供	S 非常に優れている	A 良好である	B おおむね良好である	C 不十分である	D 重大な改善事項がある
V その他業務運営	S 非常に優れている	A 良好である	B おおむね良好である	C 不十分である	D 重大な改善事項がある

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、77項目のすべてがⅢ（十分に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、NP（診療看護師）の制度化に向けた調査や特区の提案、要望書の提出などの活動が「特定看護師（仮称）」の導入に向けた動きにつながったこと、保健師・助産師の養成の大学院化に向けて取り組んだこと、看護国際フォーラムの開催、学生の学習充実のための進級試験の導入とフォロー体制の整備、ウズベキスタンの「看護教育改善プロジェクト」のフォローアップ評価を実施するなど計画以上の成果を上げている。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施していない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（達成状況が非常に優れている）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の主な項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(I-1-(1)ア(ア)a)【2】
- 人間科学科目の充実
・看護基礎科目と人間科学科目の位置づけを明確にし、カリキュラム全体の見直しを行い、解剖、生理、病理、薬理、微生物といった基礎知識のレベルアップとともに、専門性を高めた臨床現場で役立つ応用基礎を取り入れ、カリキュラムの充実を図った。
(I-1-(1)ア(イ)a)【2】
- 実習教育の充実
・実習代表者会議を設置し、各実習の連携や情報交換を行うことで、個別の学生への対応を効果的に実施した。
・大学教育と看護実践の現場との乖離をなくすため、実習担当教員を対象に県外医療機関への派遣研修を行うとともに、派遣研修参加者による学内での研修発表会により情報共有を図っている。
(I-1-(1)ア(ウ)a)
- 英語教育をはじめとする外国語教育の充実
・必修科目にCALL学習を導入し、基礎的な英語運用能力の修得を促進させた。
・ソウル大学校との交流を通じ、韓国語、看護教育、歴史文化に関する情報交換を行った。
(I-1-(1)イ(ア)c)【2】
- ONPの大学院教育の推進
・米国、韓国の姉妹校の協力で教育カリキュラムを作成し、全国に先駆け、NP（診療看護師）養成を開始すると同時に制度化に向け、特区の提案を行った。
その結果、厚生労働省に「チーム医療の推進に係る検討会」が設置され、「特定看護師（仮称）」という考え方が示された。
・社会ニーズ調査の結果を、厚生労働省へ提供するなど、制度化に向けた取組を継続して実施している。

(I-1-(1)ア(ウ)f)【2】

○助産師・保健師養成の大学院化の取り組み

- ・全国で初めて大学院での保健師養成のための56単位を修了要件とするカリキュラムを整備した。
- ・学部での助産師教育を廃止し、助産師教育の大学院のみの教育を決定した。

(I-1-(2)イa)【2】

○進級試験の実施

- ・看護系大学としては全国で初めて、進級試験を導入した。進級試験の結果がその後の基礎学力等の予測として妥当なものと評価できた。
- ・不合格の学生に対するフォロー体制も整備した。

(I-1-(2)イc)

○授業評価システムの検討

- ・教員を対象としたアンケート調査を実施し、授業評価を行った。また、各学年で総合評価の高い講義を録画し、今後の授業に活用するため、教員向けにオンデマンド配信した。

(I-2-(4)アa)

(I-2-(4)アb)【2】

○研究の推進

- ・健康増進プロジェクトとして、県、大分市、社協と連携し、介護ボランティアの育成に努めるとともに介護予防運動「お元気しゃんしゃん体操」の普及に取り組んだ。
- ・高齢者の健康増進プロジェクトのデータをまとめ、学術誌に発表した。また、プロジェクトの成果を姉妹校のソウル大学校看護学部100周年記念国際学会で発表した。

(I-2-(2)アc)

○大学外の関連機関との共同研究の推進

- ・県内大学等の相互連携組織である地域連携コンソーシアム大分で看護機材等の開発について、他大学及び企業と共同研究を実施したほか、多数の共同研究を実施した。

(I-3-(2)ab)【2】

○国際的な看護ネットワークづくり

- ・NPプロジェクトを推進するために、海外の大学と協力し、国際的な看護ネットワークづくりを推進した。

(I-3-(2)b)【2】

○ウズベキスタン「看護教育改善プロジェクト」の推進

- ・JICAと協力し、ウズベキスタン「看護教育改善プロジェクト」として、モデル校をはじめ、全ての専門学校77校でカリキュラムを見直し、看護の質の改善を図った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に 実施して いない	III 十分に 実施して いる	IV 上回って 実施して いる
教育	50(4)			38	12(4)
研究	14(2)			9	5(2)
社会貢献	13(2)			10	3(2)
合計	77(8)			57	20(8)
ウエイト考慮 後の合計	85			57	28

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、77項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(達成状況が良好である)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○これまでのプロセスを見ても、国を動かすくらいの取り組みを行っていることは評価できる。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、21項目のすべてがⅢ（十分に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施していない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（達成状況が良好である）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
(Ⅱ-2-(2)b)
- 教員の業績評価結果の活用
・教員の評価結果を学内の競争的研究費の配分及び昇任に反映させることとした。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に 実施して いない	Ⅲ 十分に 実施して いる	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	9			9	
人事の適正化	12			11	1
合計	21			20	1

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、21項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、18項目のすべてがⅢ（十分に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、外部資金として科学研究費補助金等を獲得し、財務内容の改善及び教育研究の充実が図られた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施していない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（達成状況が非常に優れている）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

※特筆すべき項目

小項目評価がⅣ（上回って実施している）の主な項目は、次のとおりであった。
(Ⅲ-2-(1) a b)

○外部研究資金の獲得

- ・若手教員を対象に科学研究費補助金採択率アップのための説明会を開催するなど、科学研究費補助金の獲得に取り組んだ結果、多くの外部研究資金（科学研究費補助金）を獲得した。
- ・教員の研究内容等の情報を紹介したリーフレットを、企業や市町村等に配付し、共同研究・受託研究の取組を推進した結果、多くの外部研究資金（共同研究・受託研究）を獲得した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に 実施して いない	Ⅲ 十分に 実施して いる	Ⅳ 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	8			7	1
外部資金等の 獲得	6			4	2
資産の適正管 理・有効活用	4			4	
合 計	18			15	3

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、18項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 平成23事業年度にS評価を得たことは、これまでの取り組みの経過を踏まえた成果であり、第2期中期目標期間においても、引き続き、外部資金の獲得等、財務内容の改善にしっかりと取り組んでもらいたい。

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ（十分に実施している）の評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施していない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（達成状況が良好である）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目はなし

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に 実施して いない	Ⅲ 十分に 実施して いる	Ⅳ 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	4			4	
情報公開	5			5	
合計	9			9	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、13項目のすべてがⅢ（十分に実施している）の評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施していない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（達成状況が良好である）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目はなし

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に 実施して いない	Ⅲ 十分に 実施して いる	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	2			2	
安全管理	8			8	
モラル・人権 啓発推進	3			3	
合計	13			13	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、13項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし